

2002年度 (2003年3月期)
業 績 概 要

日本ビクター株式会社

2003年4月25日

2002年度 (2003年3月期) 決算のポイント

1. 連結・単独ともに営業利益黒字化

(97年度以来5年ぶり)

民生事業健闘

2. 経営体質強化の進捗

雇用構造改革・拠点閉鎖・事業撤退

単独5000億円ペイライン体制

3. 総資産圧縮

資金造出: フリーキャッシュフロー233億円

2002年度 (2003年3月期) 業績概要 (連結)

(億円)

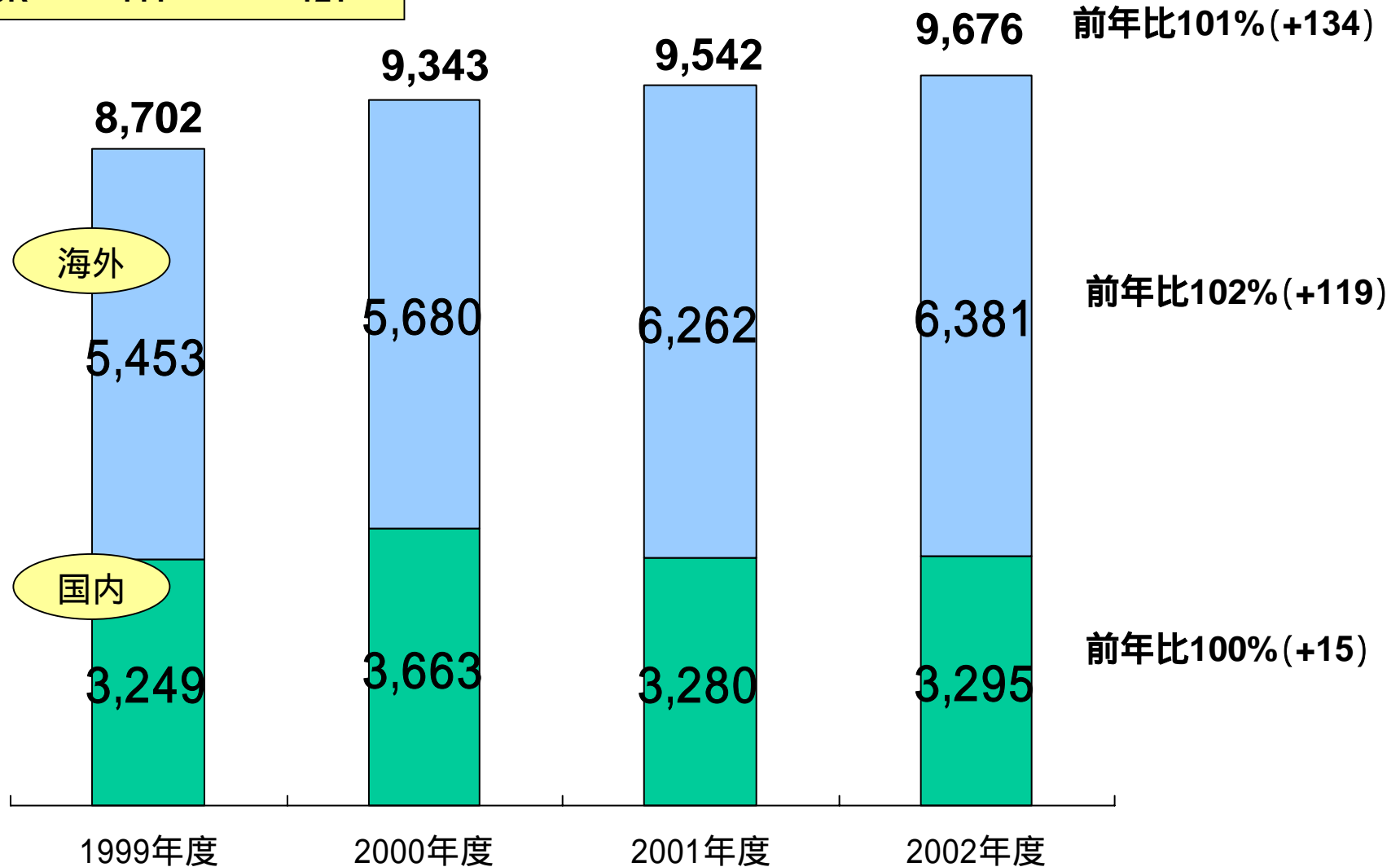
	実 績	10/29公表	前年実績	公表差	前年差
売上高	9,676	9,825	9,542	98%	101%
	2.3%	2.0%	-1.3%		
営業利益	223	200	121	23	344
	1.8%	1.4%	-1.6%		
経常利益	173	140	156	33	329
	0.7%	0.6%	-4.7%		
当期利益	63	60	446	3	509

【参考: 単独】

	実 績	10/29公表	前年実績	公表差	前年差
売上高	5,228	5,370	5,014	97%	104%
	1.4%	1.4%	-5.3%		
営業利益	73	75	268	2	341
	1.1%	0.9%	-5.1%		
経常利益	58	50	258	8	316
	0.4%	0.6%	-9.8%		
当期利益	22	30	490	8	512

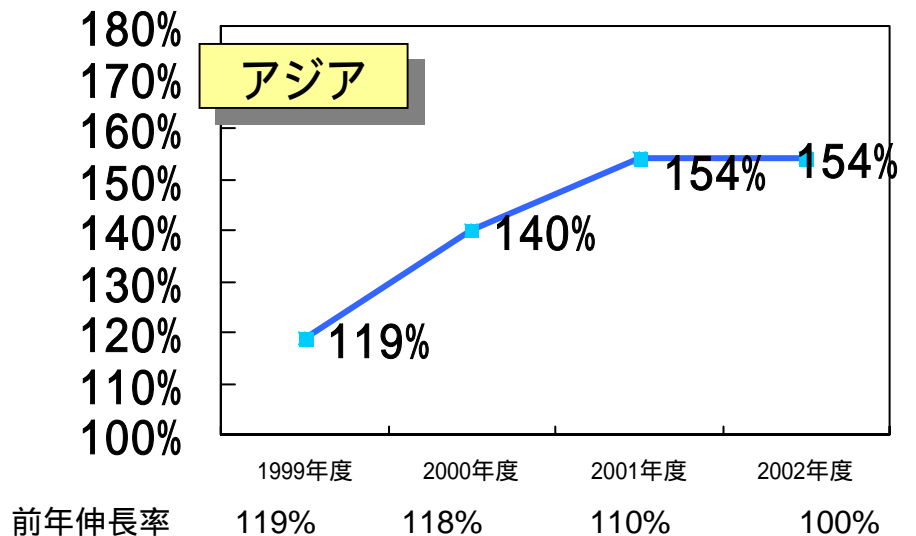
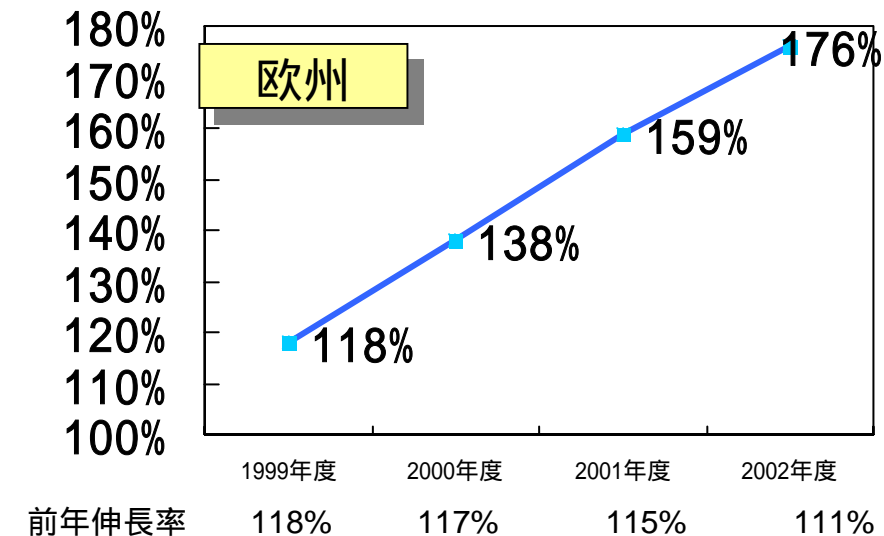
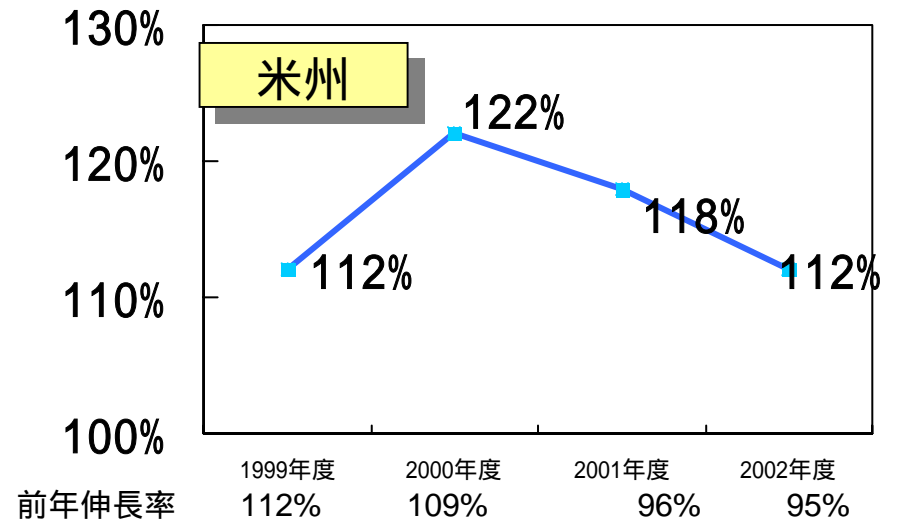
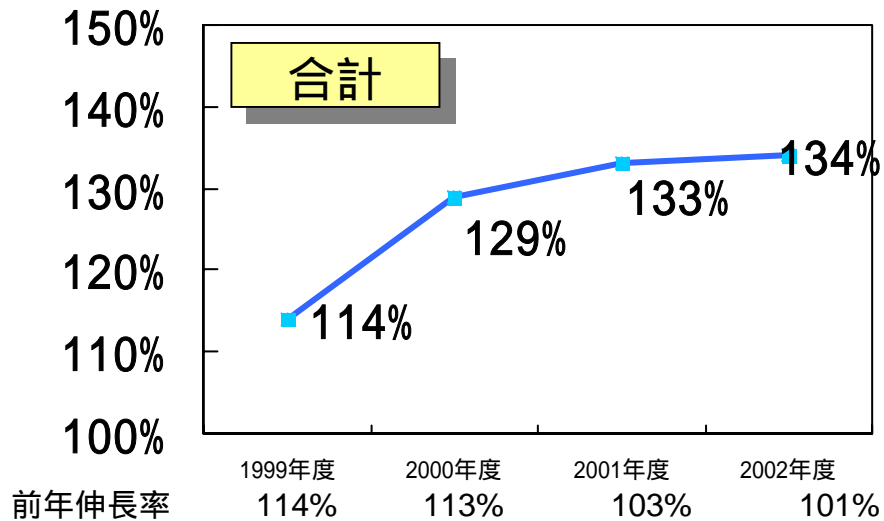
2002年度 販売状況

為替レート	2001年	2002年
US \$	125	122
EUR	111	121



2002年度 海外現地販売の伸長率(民生)

1998年度を100とした場合の伸長率(現地通貨ベース)



2002年度 損益増減分析(前年差)

前年(2001年度)
営業利益 121

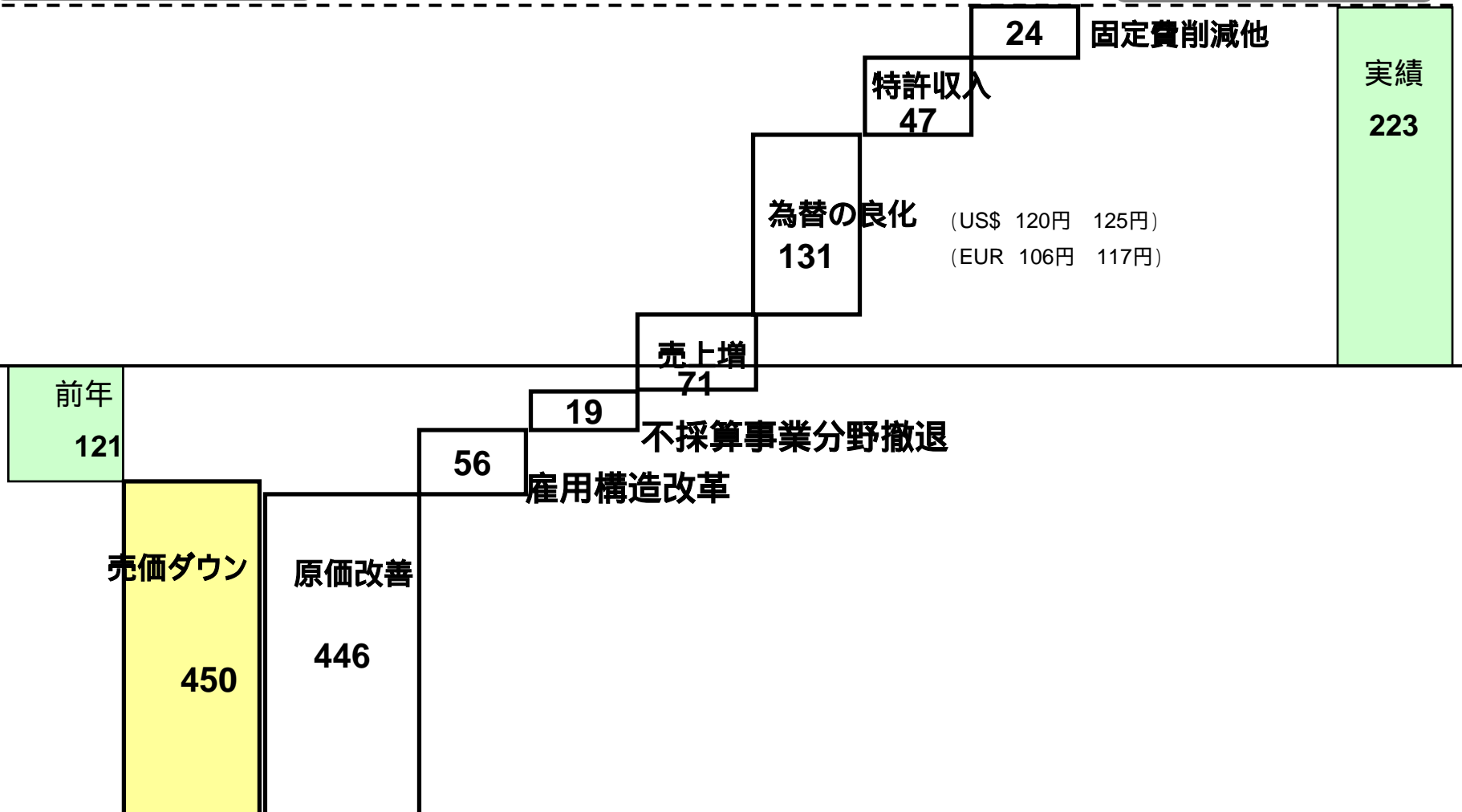
前年差
344億円改善

2002年度
営業利益 223

(億円)

利益減少要因

利益増加要因



2002年度分野別売上高・営業利益

(億円)

	売上高					営業利益				
	実績	10 / 29 公表	前年	公表比	前年比	実績	10 / 29 公表	前年	公表差	前年差
民生	6,750	6,760	6,413	100%	105%	253	186	35	67	288
産業	710	793	783	90%	91%	37	0	50	37	13
デバイス	476	504	497	94%	96%	7	2	47	9	40
ソフト・メディア	1,675	1,703	1,770	98%	95%	13	26	32	13	19

特別損益

(億円)

	実績
代行返上	34.6
不動産売却	37.1
雇用構造改革	42.6
事業構造改革	37.8
構造改革	80.4
有価証券評価損・売却損益	53.7
その他	9.9
合計	72.3

総資産圧縮

(億円)

総資産

為替レート	2002/3	2003/3
US \$	133	120
EUR	116	130

棚卸資産

1987年以来
5,000億円を下回る

226日

5,866

194日

5,134

178日

4,797

前期比
337億円削減

2001年3月末

2002年3月末

2003年3月末

60日

1,553

製商品

1,086

467

材料・仕掛

2001年3月末

48日

1,261

858

403

2002年3月末

42日

1,113

774

339

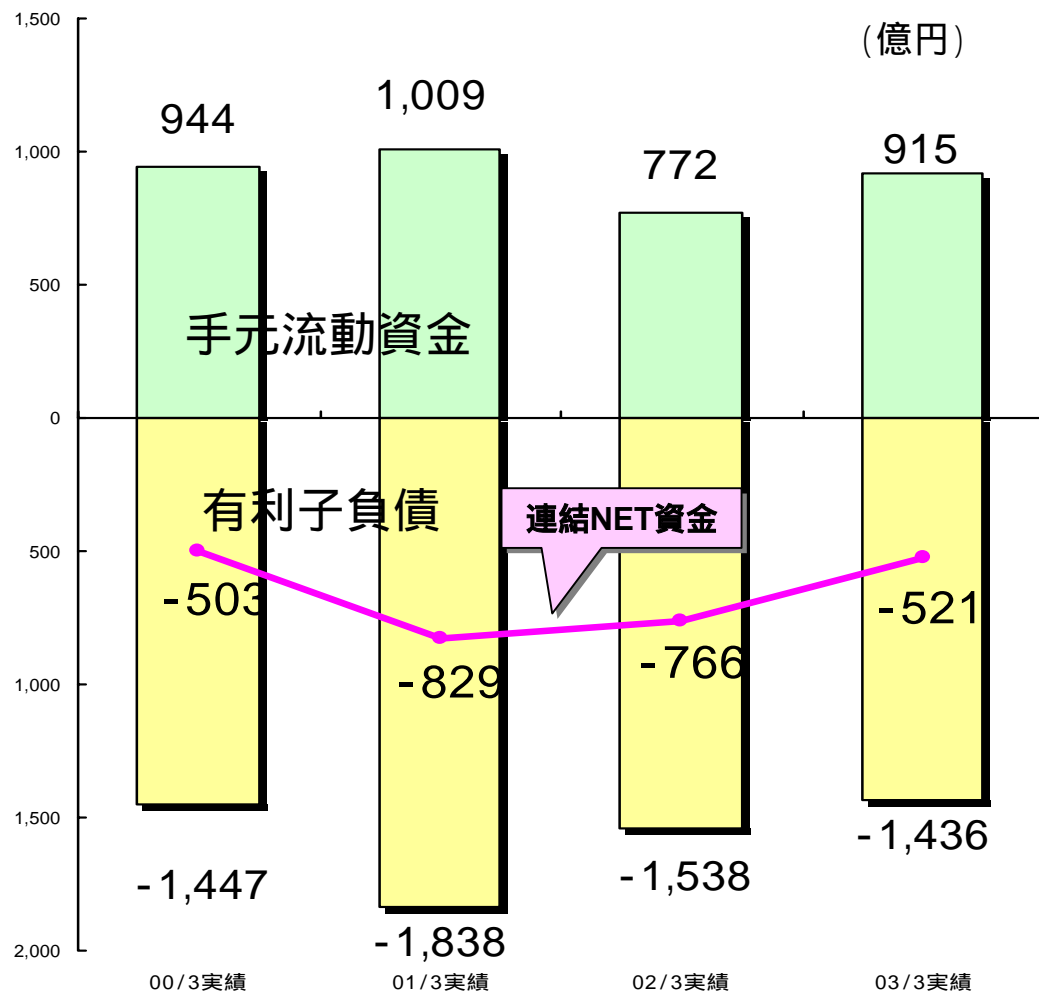
2003年3月末

前期比
148億円削減

2002年度 キャッシュフロー

連結C / F計算書

税引前利益	101
減価償却費	241
運転資金	82
棚卸資産	181
雇用構造改革	231
その他	16
営業C / F	358
固定資産	185
その他	60
投資C / F	125
フリーキャッシュフロー	233
財務C / F	73
その他調整	19
現金増減	141
期首残高	693
期末残高	834



【金型を除く有形固定資産】	(億円)	
	2001年度	2002年度
設備投資	156	130
減価償却費	166	151

2003年度 業績予想

< 連結 >

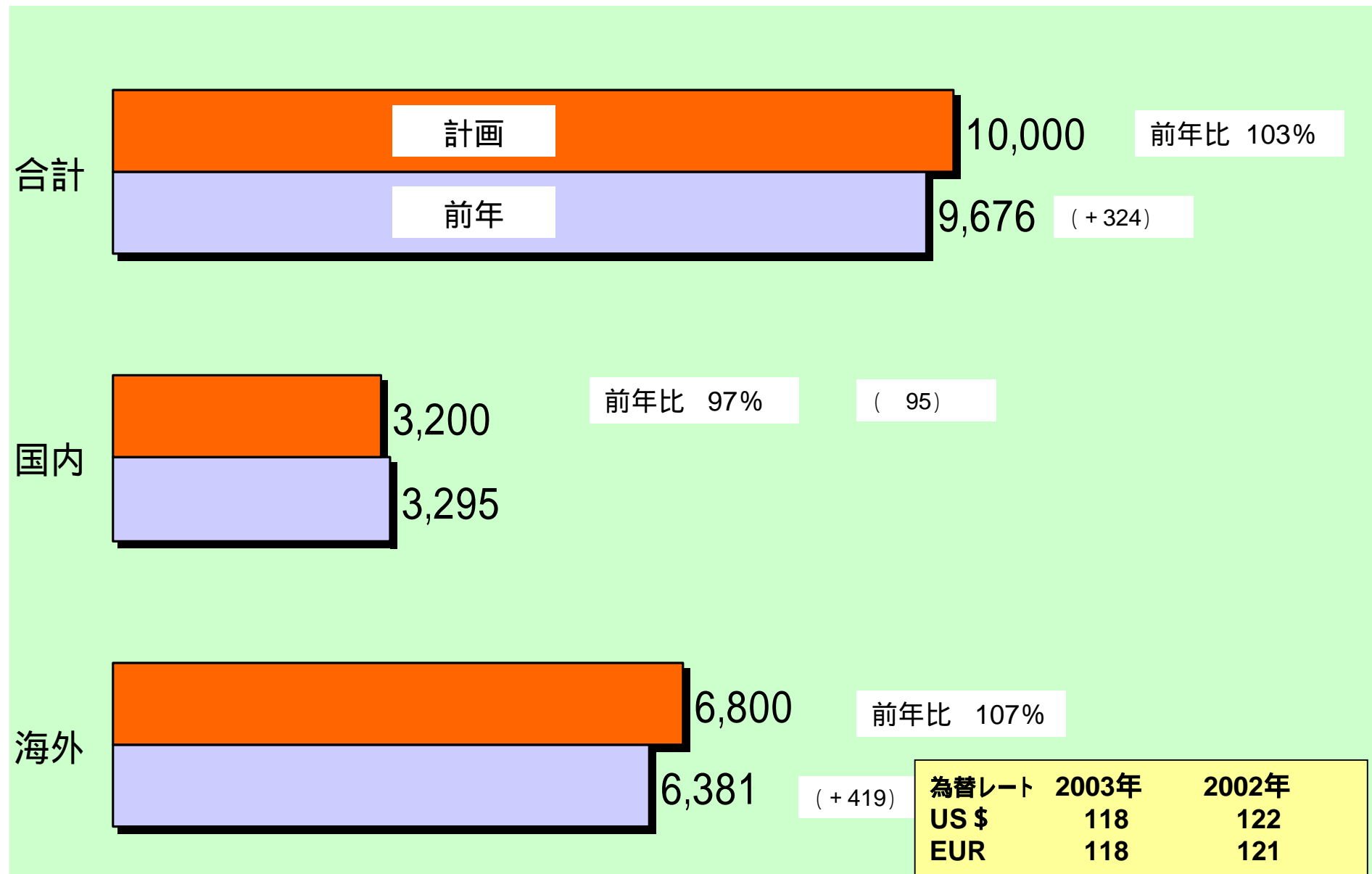
(億円)

	計	画	前年差	前年実績
売上高	10,000		103%	9,676
	2.5%			2.3%
営業利益	250		27	223
	2.0%			1.8%
経常利益	200		27	173
	1.1%			0.7%
当期利益	110		47	63

< 上半期 >

	計	画	前年差	前年実績
売上高	4,900		99%	4,925
	1.8%			1.8%
営業利益	90		1	89
	1.4%			1.2%
経常利益	68		8	60
	0.6%			0.3%
当期利益	30		16	14

2003年度 販売状況



2003年度 損益増減分析(前年差)

前年(2002年度)
営業利益 223

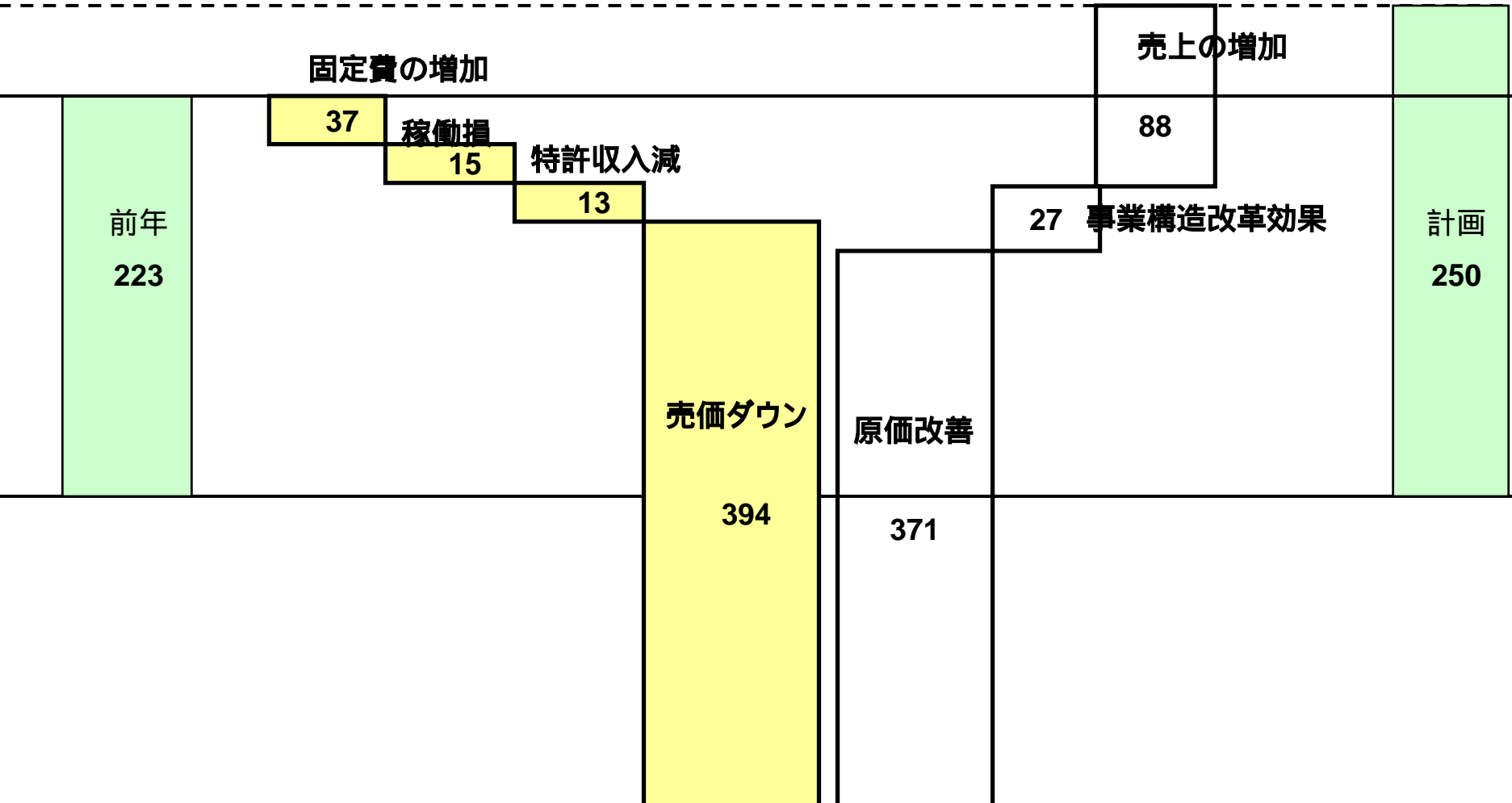
利益減少要因

前年差
27億円改善

2003年度
営業利益 250

(億円)

利益増加要因



2003年度 民生分野の状況

2003年度取組課題

【成長戦略】

- ・ディスプレイ
高画質戦略を軸としたシェアアップ
- ・カーAV
販売間口拡大・新市場開拓
- ・カムコーダー
DVC世界No1戦略
HDワールドの展開
- ・光ディスク
DVDレコーダーの市場参入

【経営体質強化】

- ・原価創造活動
- ・ものづくり、品質改革
- ・物流改革

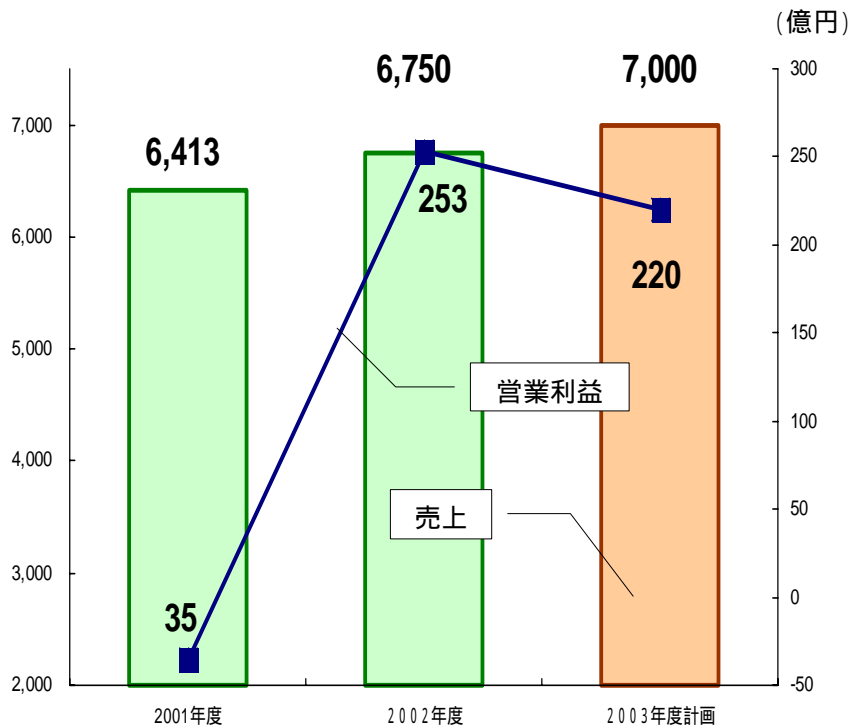
営業利益前年比増減要因

【増益要因】

- ・増収効果
- ・原価改善

【減益要因】

- ・売価下落
- ・特許収入の減少
- ・在庫削減に伴う稼働損



	2002年実績	2003年計画	前年比
売上	6,750	7,000	104%
営業利益	3.7% 253	3.1% 220	33

2003年度 産業分野の状況

2003年度取組課題

～事業再構築～

【重点事業への集中特化】

- ・セキュリティ
カメラと圧縮技術の優位性活用
- ・プレゼンテーション
ネットワーク対応技術
ILAプロジェクター

【ILAプロジェクター生産性向上】

高信頼性ものづくり体制の確立

【開発営業の展開】

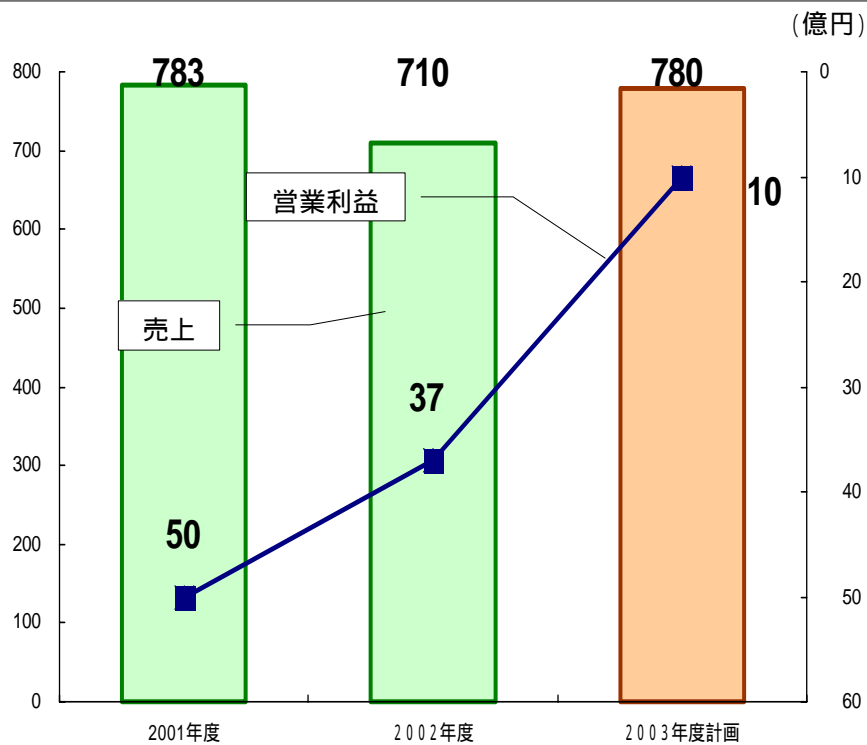
営業利益前年比増減要因

【増益要因】

- ・増収効果(セキュリティ/プレゼンテーション)
- ・ILAプロジェクター市場再導入

【減益要因】

- ・売価下落



	2002年実績	2003年計画	前年比
売上	710	780	110%
営業利益	-5.2%	-1.3%	27

2003年度 デバイス分野の状況

2003年度取組課題

～ 体質強化・黒字転換～

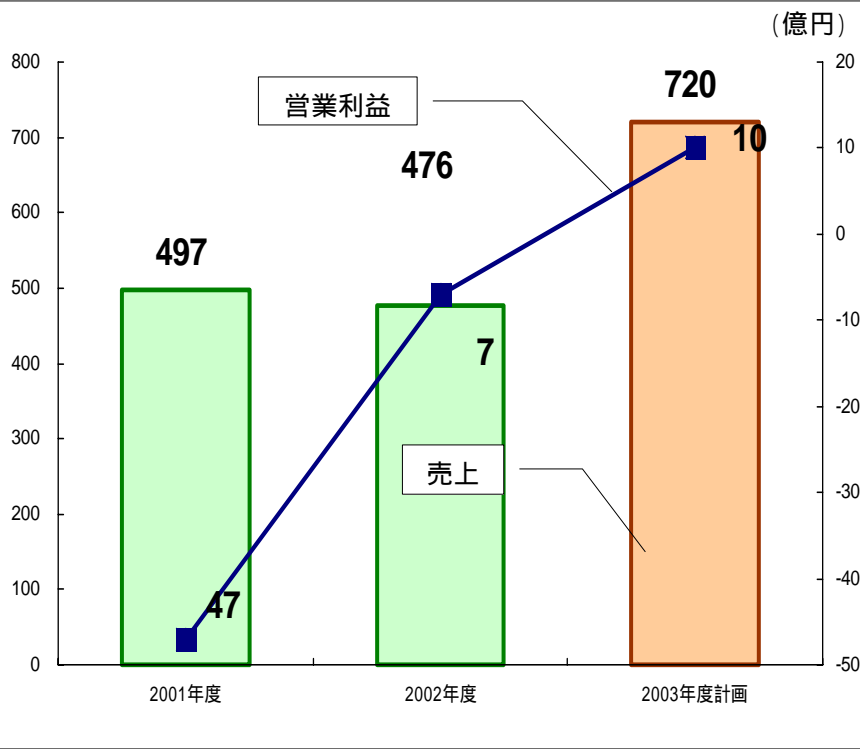
【成長事業】

- ・拡大基盤づくり
流体軸受けモーター
二波長ピックアップ

【生き残り事業】

- ・用途拡大
偏向ヨーク
サーキット

【開発営業の展開】



営業利益前年比増減要因

【増益要因】

- ・構造改革効果 (デバイス事業)

- ・原価改善

【減益要因】

- ・売価下落

- ・成長事業への償却負担増加

	2002年実績	2003年計画	前年比
売上	476	720	151%
営業利益	-1.5% 7	1.4% 10	17

2003年度 ソフト・メディア分野の状況

2003年度取組課題

【ソフトメディア】

- ・音楽事業への特化と周辺事業強化
- 中規模ヒット作品
- 権利ビジネス
- ノンパッケージビジネス

【記録メディア】

- ・販売拡大と経営体質のブレークスルー
- ペイラインの引下げ(歩留向上)
- 成長戦略の明確化(DVC・DVD……)
- 販売間口の拡大

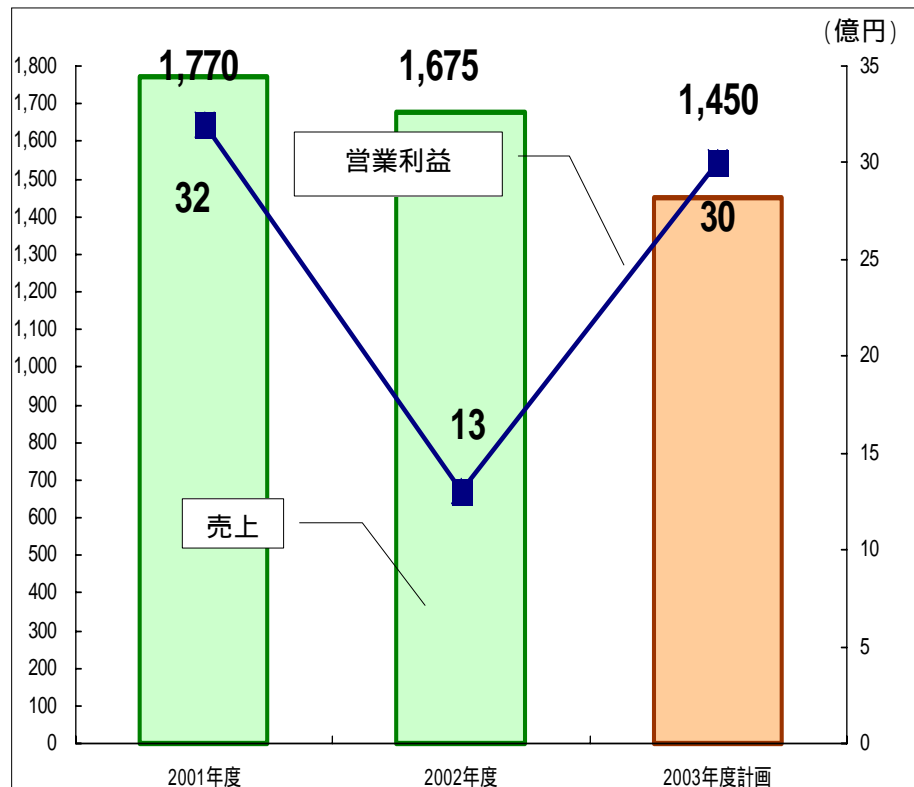
営業利益前年比増減要因

【増益要因】

- ・構造改革効果(VE・映画事業・ゲーム事業)
- ・体質改善

【減益要因】

- ・売価下落(DVCテープ・DVD - RW等)



	2002年実績	2003年度計画	前年比
売上	1,675	1,450	87%
営業利益	0.8% 13	2.1% 30	17